

ふじあざみ



土石流発生前(10月15日撮影)



土石流発生後(12月7日撮影)

大沢崩れから土石流が発生

平成16年12月4日夕刻から降り続いた雨により、翌日の午前3時から5時かけて富士山の大沢崩れから連続的に土石流が発生し、富士砂防事務所が管轄する大沢川下流の砂防施設「大沢扇状地」に約11万m³の土砂が堆積しました。これは、平成12年11月21日午前3時頃に発生した約28万m³の土砂を大沢扇状地に堆積させた前回の土石流から4年ぶりとなります。

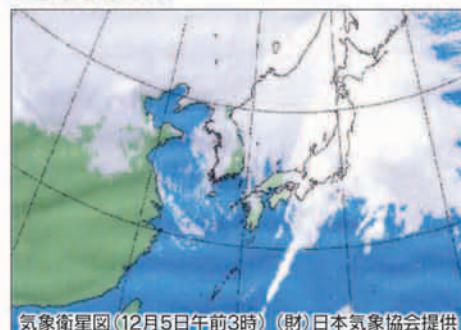
■大沢崩れにおける

土石流発生前と発生後の比較

この土石流によって流出した土砂は、主に富士山西斜面に位置する大沢崩れの谷底に堆積していたものです。上の2つの写真はほぼ同じ地点から撮影した土石流発生前と土石流発生後の大沢崩れの写真です。2つのY字形に見える部分を比較すると、谷底付近の地形が侵食により大きく変化しており、

貯まっていた土砂が流出してなくなっている様子がわかります。

■気象状況



気象衛星図(12月5日午前3時)(財)日本気象協会提供

12月4日午前9時頃に沖縄近海の東シナ海で発生した低気圧は、5日にかけて発達しながら太平洋沿岸を東進しました。この影響で大沢川流域では気温がマイナスからプラスに大きく上昇するとともに、土石流発生時、大滝観測所(標高1,700m)と御中道観測所(標高2,350m)で1時間に約20~30mmの降

雨を記録しました。同観測所の5日7時までの総雨量は、大滝観測所で162mm、御中道観測所で126mmでした。

●H12.11.21と今回の総雨量の比較

	H12.11.21	今回
大滝観測所	194mm	162mm
御中道観測所	260mm	126mm

■災害は発生せず

今回の約11万m³におよぶ堆積土砂は、主に大沢扇状地内の完成間近の7号上流床固工に堆積したことにより、この土石流による被害はありませんでした。今後、速やかに今回堆積した土砂の除去を行い、今後の土石流に備えます。



土砂が堆積した7号上流床固工(H16.12.5撮影)

平成16年12月5日土石流状況

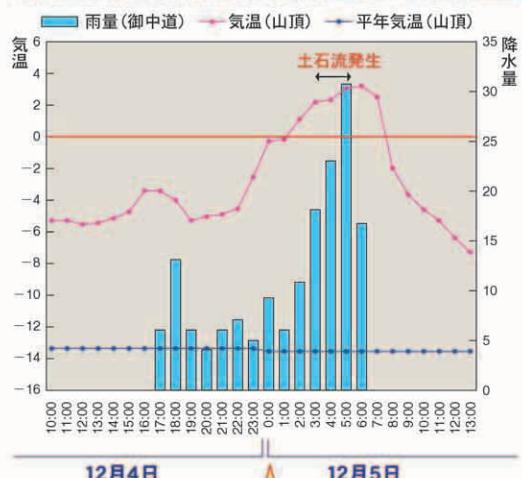
大沢崩れは、富士山頂付近から西斜面に位置する延長約2.1km、最大幅約500m、最大深さ約150mの巨大な崩壊です。大沢崩れでは、これまでにたびたび土石流が発生しており、中でも昭和47年や54年などは家屋や耕地等に被害を出しています。(今回の土石流による被害はありませんでした。)



大瀧監視カメラが、通常水が流れていないこの地点において、3時18分頃、水量が急増し流下する土石流をとらえました。



大沢崩れ付近の気温と降水量



12月4日夕刻から雨が降り続き山頂では雪が解けるほど気温が上昇しました。

今回の土石流で大沢扇状地には約11万m³の土砂が堆積

土石流発生前 H16.10.15撮影



土石流発生後 H16.12.7撮影



土石流は主に完成間近の7号上流床工周辺に堆積しました。
(床工:土砂を堆積させたり、河床の侵食を防止するための施設)

計算による堆積、侵食図



今回の土石流発生後と昨年1月で地面の高さを比較した結果、大沢扇状地には約11万m³の土砂が堆積したことがわかりました。これは富士宮市役所約2杯分に相当し、これをすべて運び出すには、延べ22,000台のダンプトラック(10t)が必要です。

レーザ測量
今回の土砂量の計測には、レーザ測量という手法を使用しました。レーザ測量とは、飛行機から発射されたレーザ光線が地表面に反射されて戻ってくる時間を計測して地面の高さを測定するものです。レーザ測量は短時間で広い面積を計測できるという利点があるため、富士砂防事務所ではレーザ測量により毎年大沢扇状地を計測し、土砂量を把握しています。



上井出保育園
塩沢治子園長先生の話

昨今の社会情勢をみても危機管理への対応が重要視されているようですね。特に潤井川は昔からたびたび氾濫し、富士宮市は幾度と無く災害に悩まされてきました。最近では砂防施設のおかげで災害が発生していないようですが、12月5日の土石流の映像を見せていただいて驚いたのと同時に、砂防施設の重要さを強く感じました。富士砂防事務所の皆さんとは、「フーちゃん公園の花植え」などでお付き合いがあり、地域とのコミュニケーションが取れていて、「この人たちに任せておけば大丈夫!」と感じています。また、園でお預かりしている0から5歳まで83名の園児の保護者からも「安心して暮らせます。」という意見をたくさん頂いています。

山頂にかかる雲の様子を見ながら洗濯したりして、生活の中でごく自然に存在する富士山。その美しい富士山の自然と災害から地域を守っていただくことを、これからもよろしくお願いします。

※H16.12.5発生の土石流については、富士砂防事務所HPでも紹介しています。 <http://www.cbr.mlit.go.jp/fujisabo/>

富士山に暮らす

宝永噴火を生きぬいた「宝永のスギ」

■大杉は「子之神社」の御神木

御殿場市にある「子之神社」の敷地内にそびえる「宝永のスギ」はこの神社の御神木にもなっています。子は方角で言えば真北にあたりますが、富士山頂からはほぼ真東に位置しています。

神社の周辺は田園地帯で視界を遮る物がないため、遠くからもよく目立つこの杉の木は、北側の枝が少し欠けているのが特徴です。北側が欠けていなければ、左右対称の絶妙な美しさを見られたことでしょう。

宝永年間は1704~11年(今から約300年前)にあたるので、推定樹齢700年とは一致せず、「宝永のスギ」の名は植えられた年ではありません。近年になって、富士山の宝永噴火による砂礫が高い枝の部分に積もったまま残っていたのが発見されました。この杉の木は宝永の大噴火を生きのびた杉の木ということなのです。

宝永期に400歳ほどだったとすれば、当時



写真提供：御殿場市教育委員会発行「御殿場の文化財」より

既に相当な巨木だったと考えられます。宝永噴火の恐怖におののきながら、当時の人々はこの大杉に無事を祈ったのではないかでしょうか。

御殿場市の「子之神社」には、「宝永のスギ」と呼ばれる大きな杉の木があります。樹齢約700年と推定されるこの杉の木は、宝永の時代(約300年前)以前に植えられました。では、どうして「宝永のスギ」という名前が付いたのでしょうか。そこには、この巨木と宝永噴火との深い関係がありました。

■県の天然記念物に指定

宝永4(1707)年の富士山噴火の際、砂礫が一帯を覆い尽くしたにもかかわらず、この杉は悠然と立ち、厳しい状況の中をその生命力で生きぬき、現在でも凜々しい姿を見せてています。市内でも最大級のこの杉は、現在のように高くて密集した建築物のなかつた昔には、かなりの遠方からでもその姿を望むことができたということです。

昭和38年には静岡県の天然記念物にも指定された「宝永のスギ」は、高さ33m、枝張りは東西に22.4m、南北に24mの勇姿を誇り、現在でも地元の人々の心のよりどころとなっています。



宝永のスギ

静岡県指定天然記念物(第254号)

【指定年月日】

昭和38年2月19日

【所在地】

御殿場市柴怒田
135(子之神社)

うのに対して、現存している旧石疊は全く流れずに残っており昔の人の技術力の高さにも驚かされます。



旧村山口登山道保存会の皆さん

美しい富士山を次世代に託す

この活動はこれからも続けていく予定で、次世代まで引き継いでいって地域の良さを知ってもらいたい、また復活した登山道を散策ルートとして多くの方に楽しんでもらいたいと旧登山道復活に対する意欲を語られました。



■プロフィール

神戸 勝(ごうど すぐる)氏(写真中央)

旧村山口登山道保存会会長

佐野 一男(さの かずお)氏(写真右)

富士宮市立富士根北中学校 校長

町田 強史(まちだ つよし)氏(写真左)

富士宮市立富士根北中学校 教頭

富士山に寄せる想い

大沢扇状地の工事で発生した石を使い旧登山道を復活

かつて富士山に信仰を寄せる修験者など多くの登山者が通行した登山道があります。それが「旧村山口登山道」です。現在の富士宮口登山道の基となるルートが開かれて以来利用が少なくなり荒廃が進むこの登山道を修復し復活させようとする地域の住民や中学生がいます。

今回は富士山の大沢扇状地の除石工事で発生した石を使い、地域の人たちと旧村山口登山道の石疊を復活させようと「一石運動」を積極的に取り組んでいる旧村山口登山道保存会会長 神戸勝さんと、同じく総合学習の時間の一環として、石疊を修復している富士宮市立富士根北中学校の校長 佐野一男さん、同教頭町田強史さんの3名にお話を伺いました。



「旧村山口登山道」の石疊

■先人の技術力の高さに驚かされる

富士根北中学校では、総合学習の一環として旧村山口登山道の石疊の整備を平成12年から始めて以来毎年行っています。昨年度か

らは富士砂防事務所と富士宮市河川課の協力で、富士山の大沢扇状地に堆積した石を材料として石疊を整備しています。

村山区でも「一石運動」は平成4年の富士宮市政50周年の時に発足、その時は登山道の草刈をするくらいの活動で一旦終結してしまいましたが、富士根北中学校に触発され、平成14年から「一石運動」を再度検討し平成15年7月1日の富士山開きに合わせて再び発足しました。その時は、県外からの参加者もあり『富士山から出たものは富士山に返す』を合言葉に石疊の整備を行っています。

重機を使わないので石が重たく数十メートル整備するのにもひと苦労、昔の人たち努力はすごかったんだと実際に作業してみてはじめてわかりました。また、私たちがせっかく整備した石疊が、多少のコンクリートで固めるにもかかわらず大雨の時の水で流されてしま



富士根北中学校の生徒さんたちの活動の様子

お知らせ

大沢川にて土石流発生

12月4日夕刻から低気圧によって降り続いた雨により、大沢川にて5日午前3時から5時頃にかけて土石流が連続的に発生しました。富士砂防事務所土砂災害等対策部では、静岡東部地方の大河洪水警報発令を受けて4日20時00分より準備態勢に入り、5日3時18分土石流発生のため4時00分に警戒態勢に切り替え、情報の収集、関係機関への情報伝達を行いました。また、5日6時に雨が降りやんだこと、その後降雨の予測がないことを確認したうえで、現地調査を実施し、大沢扇状地の土砂の堆積状況、大沢川周辺の被災状況を確認した結果、被災はありませんでした。

平成17年度より由比地区にて直轄地すべり対策事業を実施

東名高速道路や新幹線など日本の大動脈が集中する静岡県由比町のサツカ岬付近において、沿岸部のせり出した山が地すべりによって交通網が寸断される可能性があるとして、平成17年度政府予算の財務省原案に直轄地すべり対策事業が新規採択されました。

本年度当該地区の調査にあたった富士砂防事務所が、来年度以降引き続き工事を実施する予定です。

富士山への手紙・絵コンクール入賞作品紹介

富士宮市、富士砂防事務所主催の第9回富士山への手紙・絵コンクールの最終審査を作家村松友視氏を審査委員長に11月4日富士宮市役所で行いました。海外(アメリカ、シンガポール、フランス)からの出品24点を含めた絵画4,657点、手紙4,029点が寄せられ、216点が入賞しました。表彰式は平成17年2月5日に富士宮市文化会館で開催される富士山学習発表会の中で行います。

各部門の最優秀賞は次のとおりです。

富士山への手紙 部門

最優秀賞

小学校 幼学年の部 深沢 友香(ふかさわ ゆか)
富士宮市立東小学校

小学校 高学年の部 鈴木 健太郎(すずき けんたろう)
富士宮市立富丘小学校

中学生の部 志村 恵(しむら めぐみ)
富士宮市立富士宮第二中学校

高校生・成人の部 小林 まさお(こばやしまさお)
富山県上新川郡大山町

特別賞

松本 優一郎(まつもと ゆういちろう)
富士宮市立大宮小学校



富士山総合学習及び現地見学会結果報告

実施日	見学者等	参加人数	行事内容
11月2日(火)	富士宮市立大富士中学校	5名	総合学習
11月4日(木)	富士五湖広域行政組合	22名	概要説明・講演会
11月11日(木)	JICAイラン	5名	概要説明と扇状地見学
11月12日(金)	東京都新都市公社	40名	概要説明と扇状地見学
11月16日(火)	富士市立富士中学校	4名	総合学習
11月17日(水)	富士市立富士中学校	20名	総合学習
11月17日(水)	御殿場市立西中学校	2名	総合学習
11月19日(金)	市内朝日町琴平区高齢者	25名	概要説明・講演会
11月24日(水)	JICAインドネシア	3名	概要説明と扇状地見学
11月26日(金)	山梨県高校教職員	42名	概要説明・講演会
12月1日(水)	富士宮市内 ライフウェーブ	20名	概要説明・講演会
12月4日(土)	日仏自然災害ワークショップ	24名	扇状地見学
12月6日(月)	富士宮市会議員	35名	扇状地見学

上井出保育園との交流会

富士砂防事務所の一部職員で結成するギター倶楽部は、休日やアフターファイブを使ってギター・ケーナの練習に励んでいます。12月2日には、事業紹介を兼ねて上井出保育園の園児とその父兄、保育士さんとで演奏会を開きました。皆さんにとても好評でした。



お詫びと訂正

前号の「ふじあざみ51号」におきまして、誤りがありました。4ページ「かりがね祭りへの出展」の文章中1行目の文字が間違っており、読者の皆様にご迷惑をおかけいたしました。ここにお詫びし、訂正します。

誤
神殿

正
新田

●ご意見・ご感想・ご質問など、お気軽にお寄せください。

富士山に関する古い写真・資料等をお持ちの方、また災害体験をされた方の情報提供をお願いいたします。

●お問い合わせ・ご連絡先

■国土交通省富士砂防事務所

〒418-0004 静岡県富士宮市三園平1100

担当／総務課長・釜崎、または調査課長・伊藤まで

TEL.0544-27-5221

インターネット <http://www.cbr.mlit.go.jp/fujisabo/>

■富士宮砂防出張所

〒418-0103 静岡県富士宮市上井出826-1

TEL.0544-54-0236

「ふじあざみ」に掲載している内容・データ等は、現時点までに得ている調査結果を基にしています。

今後の調査等の進展により、内容の一部または全部に変更が生じる場合もあります。